

○安原 智久¹, 小西 元美¹, 曾根 知道¹, 栗尾 和佐子¹, 山本 祐実¹, 西川 智絵¹,
柳田 一夫¹, 中村 三孝¹

¹摂南大薬

化学系の学習は、基本的な知識や計算の技能を活用し、より高次の理解に至ることの繰り返しであるが、多くの学生は暗記と慣れで化学の問題に取り組んでいく。このずれの原因の一つに、実際に化学の知識や技能を使い、評価される場が学生に提供されていないことが挙げられる。これに対して、チーム基盤型学習 (TBL) は、化学の実践の場を提供し、学生間相互教育により様々な理解レベルの学生に知識と技能を再確認させ、学生の参加姿勢まで含めた評価を行うことが可能になる。本学では、1 年生に対して、講義と並行して、前期に「化学」、後期に「物理化学」、「薬品分析学」の演習を TBL により行うと共に、参加型学習におけるピア評価の有用性についての研究¹⁾を行っている。前期の TBL 演習後に行ったアンケートでは TBL は有効な学習方法だ (89%) という好意的な回答を得た。ピア評価が必要か？

(必要 58%・不要 8%)、ピア評価の存在が学習意欲を高めるか？ (高める 65%・下げる 7%) という質問では肯定的な回答が示された。また、前期開講科目である「化学」の中間試験と期末試験の比較から算出した成績の向上と、ピア評価の総括的評価の割合 (20%) を低いと感じることに、有意な相関がみられた (Logistic 回帰解析、 $p = 0.022$)。本フォーラムでは、TBL が化学教育に知識・技能・態度にわたる方略と評価を含んだ包括的な実践型学習環境を提供した事例を紹介すると共に、本学の 1 年間の TBL とその中で行ったピア評価がもたらした教育効果に関する考察を発表する。

1) Yasuhara, T., Yamaguchi, T., Sone, T., *et al*, *Yakugaku Zasshi*, **132**, 1179–1188 (2012).